

優秀賞

みんなを守る信号機

福岡市立博多小学校 5年 能塚 旦

ぼくのお父さんとお母さんが先月、車に乗っていた時の話です。いつものようにお父さんの運転で買い物に行くところには、トラックが多く走る道路を使っています。

右に曲がるために対向の車が赤信号で止まっているのを見て、曲がろうとした時、反対側の右に曲がる車の横にもう一台の大きなトラックがお父さんの車の前にとつぜん出てきたそうです。

スピードは落としていたといっても、おたがい正面を向いていて、どちらも止まることができたので、事故にならずにすみました。

お母さんも見上げなければ運転席も見えないほどのトラックが目の前に来て「絶対ぶつかる！」と思ったそうです。お父さんは「とつぜんのことでクラクションを鳴らせなかつた。」と言っていました。

どうしてトラックがぶつかりそうになったのかをお父さんに聞くと、「赤だけど急いで右に曲がるためにはみ出して走ってきたんだ。」と言う返事でした。

この話を聞いて、ぼくは事故にあわなくて本当によかったと思いました。お父さんは、信号を守って走っていたとしても相手の車が守らなければ、事故は起きてしまいます。

特に、大きな車を運転する人には、車や自転車、歩行者には気をつけて走ってもらいたいです。

その数日後、お父さんが運転していた時のことです。目の前の信号が青になり走り始めた時、右から歩道の上を自転車が走って来たのをお母さんが見つけて、お父さんに「あぶない！止まって！」と言ってあわてて止まったくそうです。

夕方でうす暗く、お父さんには見えづらかったみたいですが、今度はお父さんが事故を起こさずよかったです。

交通事故をなくすためには、歩行者も、自転車も車を運転する人も信号や交通ルールを守ることが大切だと思います。

ぼくも守っていこうと思います。